



關渡ビエンナーレでの《Frozen》の展示

小瀬村真美の近作

2013 年スイスのクラン・モンタナ行なわれたレジデンスの報告会が、14 年 6 月に銀座ハイエックセンターのイベントホールで開催された。会場では土屋貴哉との共作《冬景山水図》の上映もあった。本作は、かつて横浜美術館の「日本×画展」で発表した《四季山水図》につづくもので、「映像による日本画」とも言え 2 作目になる。今回はボストン美術館所蔵の狩野栄納の花鳥図から構図を借用し、画面には徐々に霧が立ちこめ、古典絵画の風景は変化していく。この変化をインスタレーションと組み合わせていくのが、小瀬村の作品である。

2014 年はまた、Kuandu Biennale(關渡ビエンナーレ・9 月 26 日から 12 月 14 日)への出品があり、会場となった臺北藝術大学の關渡美術館には、《Frozen》の最大級のインスタレーションとこれまた最大級の写真作品《Drape》(92×222cm)のシリーズが展示された。

《Frozen》の最初の発表は、2011 年東京での個展「闇に鳥、灰色の影」である。海景と思えるグレーの画面にしだいに墨のような不気味な晴れ間が侵蝕し、風景はゆがんでくる。ラスト近く画面から鳥の映像が飛び立ち会場を巡る。台北では、会場に布をこれまでより多く吊るし、複雑な空間を構成した。映像インスタレーションは会場によって作品の見せ方が変化していく。小瀬村の柔軟な構想によって影は会場に溶け、アトモスフェアとなる。

(芸術学科・三上 豊)

こせむら まみ：1976 年神奈川県生まれ。東京在住。ある実在する絵画を模してセットを組み、デジタルカメラによりその変化を捉えた映像作品を 2001 年より制作。近年は映像の一場面より絵画も制作。和光大学表現学部芸術学科准教授。



《Frozen》 映像インスタレーション・2011/14年



《冬景山水図》 映像インスタレーション・2013/14年



《Drape》シリーズより（上下とも）写真・2014年